

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190202291		
法人名	医療法人社団 翔嶺館		
事業所名	グループホーム丘珠たから館		
所在地	札幌市東区北34条東24丁目2番12号		
自己評価作成日	令和7年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JirvosvoCd=0190202291-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム丘珠たから館は、丘珠空港近くの閑静な住宅街に位置する開設2年目を迎えた2階建ての2ユニットの施設です。入居前は、ご本人様とご家族様としっかり入居後の生活について希望や目標の話し合いをし、入居者様の実現したい暮らしのサポートをさせていただいております。住居環境につきましては、施設内バリアフリーで、どのお部屋からもトイレが近く、フロア内に死角がないことで職員も見守りしやすい施設となっております。今年も春には、入居者様全員で花見に行き、夏は、ご家族様も招待し夏祭りを催しました。子ども太鼓のボランティアの皆さんにも来ていただき近所の方も見学にいらして大変盛り上がり、皆様から「楽しかった」「料理が美味しかった」とのお言葉を頂戴いたしました。10月は、モエレ沼公園へ紅葉狩りにも行けました。これからも四季の移り変わりを肌で感じて頂けるようなイベントを企画し、地域の方々とも交流が持てるよう支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム丘珠たから館」は、地下鉄新道駅からバスに乗り継ぎ、停留所から徒歩で数分の静かな住宅地に建っている2ユニットの事業所である。周囲には大型家具店や公園、児童館がある。新築2階建ての建物内は清潔で、居間の大きな窓から自然光が入り、明るく広々とした造りで開放感がある。当事業所は開設2年が経過し法人本部の支援体制の下、管理者と職員は理念にある「その人らしさ」を大切に、明るく笑顔のある環境づくりを真摯な姿勢で熱心に取り組んでいる。前回の課題にも前向きに取り組み、地域との関係作りを考えている。運営推進会議では地域の情報や多くの意見が寄せられており運営に反映している。また同法人関連の協力医療機関との連携で家族の安心感につながっている。事業所の夏祭りには職員手作りの料理を並べて家族の他、隣近所や子供たちが立ち寄り、子供ボランティアの和太鼓を楽しんで住民と交流している。職員は法人研修や内部研修で学ぶ機会が多く、質の向上が計画的に行われている。介護計画では情報を蓄積して毎月モニタリングを行いケアの面では排泄の自立面を支えている。利用者は花見や紅葉見学に出かけて季節を感じたり、誕生日には好みのバラ寿司や赤飯、天ぷらを揚げてお祝いするなど、利用者の意向にそって丁寧に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「その人らしさ、笑顔、安全」のある生活を地域とともに支えます。更に「職員の心得15か条」を掲げ常に意識して取り組んでいる。	理念に、利用者の生活を地域とともに支えるという内容を新たに加えて地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念と「職員の心得15か条」を要所に掲示し、毎月の会議で理念を確認して共有し、職員は意識してケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と交流が持てるよう町内会に加入し、地域の情報を共有しています。	町内会の行事内容は利用者には難しいので参加はしていない。また児童館との交流は感染症予防の事情もあり、状況を見ている。事業所の夏祭りには隣近所や子供たちが立ち寄り、子供ボランティアの和太鼓や、ヨーヨー釣りを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	接触による罹患を想定すると、地域の方との交流に慎重にならざるを得ない状況ではあるが、今後は地域の行事への協力・参加をしていきたいと考えております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進委員を実施し、地域包括支援センター、民生委員、地域の代表者、参加希望のあるご家族様を交え、情報交換を行っています。また地域の会場を使うことで地域貢献しています。	家族が参加しやすい時間帯を工夫して運営推進会議を開催している。行事、身体拘束排除、緊急時等の研修報告や感染予防の実技講座を行っている。今後は会議案内にテーマを記載し、参加が難しい家族の意見も会議に反映できるよう考えている。全家族に議事録と資料を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市には、毎月入居状況の報告をしております。生活保護の利用者様は定期的に担当者と連絡を取りサービスを受けることができます。	運営や事業所報告は本部で行っている。管理者は区役所に出向いて、要介護認定の手続きや制度利用の申請代行をしている。書類申請時や電話で各課の担当者に確認したり、生活保護担当職員の訪問時には情報を共有して密に連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で定期的に身体拘束の研修を実施しており、委員会議事録を職員に回覧し情報を共有しております。すべての職員は身体拘束の概念を理解し、日常のケアに反映に努めております。	身体拘束の対応指針に基づき、法人合同委員会を開催し、事業所から役職者が出席している。議事録の内容を全職員が把握し、身体拘束は行っていない。研修では対応指針にある「禁止の対象となる具体的な行為」を理解し、事例でグループワークを行い、報告書を提出して学びを深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体で職員研修を年に2回以上実施しています。たから館では、虐待アンケートを募りグループワークで勉強会をし、不適切なケアを注意し合える関係性を築く努力をしている。		

グループホーム丘珠たから館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度、日常自立支援、権利擁護に関する制度について見識を有し、事業所内研修で職員が学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス内容、利用料金、必要物品、退居に該当する要件など、事前に説明し承諾を得ています。介護保険制度、料金改定の際には、都度同意書を交わし、承諾を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を用意し、ご家族様よりご意見、ご要望の聴取を行っています。運営推進会議の場を活用し、「ご家族様の意見や要望を聴取しています。	電話や面会時に家族の意見を聞き、個別のノートに記録して対応を共有している。広報「ともに」は全体的な行事や写真を載せて伝え、また利用者ごとのお便利には健康、食事、昼夜間の様子を報告し、毎月家族に送り喜ばれている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット毎と全体ミーティングを実施しており、利用者の入退居基準、設備や福祉用具の導入の意見や提案は積極的に聴取しています。	業務改善委員会では物品の整理を話し合い、効率的な管理方法について本部に報告している。年に1回は法人役職者との個人面談がある。管理者との面談では勤務表や個人的な相談に乗り、柔軟な対応で職員が働きやすい環境作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社、パート職職員員においては更新時に面談を実施し、前年度の振り返りや次年度の目標などを一人ひとりと話し合いの機会を持ち、個人の特性を活かした成長ができるよう支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ会社主催による研修制度があり、キャリアやスキルに応じて各種研修を受講できます。また資格取得支援として、費用負担なく主任者研修や実務者研修を受講できる制度があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内で、合同研修会、災害対策、身体拘束適正化、業務効率化に係る委員会を運営しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の不安な気持ちを払拭できるように心配事や要望には、きめ細かく対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所で出来ること出来ないことを明確にし、納得していただいた上で家族と二人三脚で本人の望む生活に向けて支援できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時点で、現在の状況をよく伺い、入居者様にとって最も適切と思われるサービスを提案できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が役割を持つ視点で出来ることに注目し、掃除や手すり拭き、食器拭き等を見守りや声を掛けて一緒に行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に担当職員を配置し、必要時にご家族と連絡を取り合い、援助方法変更等の相談もご家族にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	動画視聴などツールを用いて故郷や思い出のある場所や物などを回想できるように支援しています。	家族の他、友人や知人の来訪時には面会室で対応し、手紙のやり取りをしている利用者もいる。家族と誕生日の外泊や外食、百合が原公園に出かけた方もいる。動画視聴では、バレーボール、野球、車の話等、趣味が楽しめるよう対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極め、家事やレクリエーションを通じて、円滑な関係を築けるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に実績はないが契約を終了された入居者についても、その後の生活に必要な情報提供、事業所で可能な範囲で支援を行っていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り利用者様に直接意向を伺っています。意思疎通が困難な場合は、家族からの聞き取りや生活歴等を参考に本人本位の支援に努めています。	会話から思いを汲み取り、職員間で情報を共有している。個別のADL表一覧に趣味や嗜好等の項目を追加し、新人職員も記録ですぐ把握できるように、一覧表を全職員に渡しケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時より本人との会話や家族との話からアセスメントの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や活動等の様子を観察し、記録に残しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、ケアスタッフからの情報を基にケアプランを作成し評価しています。	毎月モニタリングを行い、6か月ごとに更新している。計画作成担当者は月のモニタリング表などを参考に会議でモニタリング評価を行い。本人、家族の意向にそって介護計画を作成している。記録はタブレット端末で行い、変化なども記している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス記録により新たな課題を見つけます。連絡ノートを活用とタブレットの申し送り機能で発信した内容を職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々生まれるニーズに対し、臨機応変に対応するよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現サービスを利用しながら、入居者様にとって有益と考えられる社会資源の活用を模索しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携している病院から2週間毎の訪問診療が基本となるが、症状やかかりつけ医の判断によっては、他の病院へ受診しています。	協力医療機関による隔週の訪問診療と、歯科医の訪問を定期的にかけている。他科受診で家族が同行する際は必要に応じて主治医の診療情報提供書を渡している。往診、通院の経過を個別に記録している。	

グループホーム丘珠たから館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院から1回/週、看護師による訪問相談を受けています。書面や口頭にて入居者様の生活状況や変化を伝え、指導を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は定期的に連絡取ることで経過や治療内容を把握し、早期退院に向けた相談や時期の調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近い入居者においては、ホームでの生活ができるボーダーラインを定め、次の生活場所へ移行できるよう、本人はもとより家族やかかりつけ医をはじめとした関係機関との連携を取っています。	利用開始時に重度化した場合の対応指針を文書で説明し、対応が難しい内容も伝えて同意を得ている。終末期が近い時は、関係者で方針を話し合い、医療行為が可能な病院や医療処置の出来る施設に移行できるよう連携しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアル(急変、事故、災害等)を設置し、入職時の研修を含め定期的に研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練(うち1回は地震対応)を実施しています。地域との連携に関しましては今後の課題と捉えています。法人全体の方針として、BCPの策定を行っています。	年2回のうち、1回は夜間想定火災と地震の避難訓練を実施し、もう1回は火災を想定した訓練を夜間に行っているが、消防署の事情で自主訓練になっている。今後は入浴時の災害等、利用者ごとの対応を具体的に話し合いたいと考えている。	事業所関係の設備会社や自衛消防訓練センター等を検討し、外部者の下で地域住民の参加も得ての避難訓練の実施に期待したい。また町内会と災害時の住民の協力内容について話し合うことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け等の言葉使いに気をつけ定期的に接遇研修を行っています。申し送りは、居室番号で示し個人名がわからないようにしています。	接遇研修で言葉かけや対応について学んでいる。気になる対応があれば管理者がその都度指導したり、職員同士で注意している。記録類も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1対1で関われる入浴時に入居者様の想いをできるだけ聞き出すなど工夫し、自ら意思決定できる働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは可能な限り入居者様が自己決定できるよう働きかけています。自己決定できない入居者様は、家事や制作の提供を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や天候にあった服装を一緒に選びます。担当職員が定期的に引きだしの整理や衣替えをしています。		

グループホーム丘珠たから館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な手作りおやつ、行事食の提供を行っている。入居者様と一緒におやつを作ったり食後の食器洗い、お盆拭きや食器拭きをしています。	食材会社の献立で職員が調理している。行事に合わせて献立を変更したり、誕生日はバラ寿司や赤飯、天ぷらなど利用者の好きな食事を提供している。畑で収穫したきゅうりで浅漬けなどを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録し管理しています。摂取能力や嚥下状態を観察報告し、医療機関と相談しながら調整しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。訪問歯科による指導やアドバイスを受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄できるよう定期的な声かけ、誘導を行っています。	睡眠状態により夜間のみベッド上で排泄用品を交換することもあるが、適切な声かけや誘導で昼夜ともにトイレでの排泄を支援している。退院後も適切な支援でトイレでの排泄につなげたり、本人のできる動作を行ってもらい排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するため排便コントロール表を作成し、看護師に相談しながら支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっていますが本人からの希望、体調に合わせて臨機応変に対応しています。	日曜日を予備日とし、午前中を中心に一人週2回の入浴を支援している。機械浴の設備もあり、全員が湯船に浸ることができる。本人の意向でシャワー浴で対応したり、入浴を拒む時は日にちを変えることもある。職員と昔話などをしながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「良眠を目指し」日中の活動量や臥床時間を考慮し対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方されている薬の内容や頓服薬も確認し、正確に服薬できるようチェックシートを用いて管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の中で参加できる活動を入居者様と一緒に見つけ、主体的に暮らしを楽しめるよう配慮しています。季節の行事や外出レクリエーションを提案し楽しみを持って生活できるよう支援しています。		

グループホーム丘珠たから館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の意見を取り入れ近所に散歩に出かけたり全員参加できる花見や紅葉狩りを計画実施しています。家族と一緒に買い物や食事、近所へ散歩に行かれる方もいます。	普段は、近隣や近くの公園まで散歩している。花見や紅葉見学で、丘珠空港やモエレ沼方面に出かけている。畑仕事や野菜の収穫で外気に触れたり、家族と外出することもある。冬季も通院などで出かける機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失事故など事故防止の視点から入居者様の金銭所持はご遠慮いただいております。必要な物品の購入は、立替払いとさせていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の充電をしたり、ご家族様からの電話の取り次ぎには快く対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい室温を保ち、感染予防策のため換気を行っています。共有部分は季節感を考え展示物や飾りつけをしています。	大きな窓に面した開放感のある居間と食堂には、明るい光が注いでいる。壁には利用者と一緒に制作したクリスマス装飾や冬季を感じる雪景色の木など、ユニットごとに工夫を凝らした作品が飾られている。トイレや浴室も広々としており、清潔感のある使いやすい造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫し、おひとりで寛ぎたい方もグループで談話したい方にも快適に感じただけできるよう努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたものを持ち込んでいただけるよう、ご家族にお願いしています。馴染みのあるものを使うことで自分の居場所として安心して生活いただけるよう努めています。	入り口に本人の作品が飾られている。クローゼットが備え付けられている居室に、使い慣れた椅子やテーブル、テレビなどを持ち込んで使いやすく配置している。家族の写真やアルバムを見たり、好きな縫いぐるみを置いて、居心地よく過ごせる室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計で共有部分は全て手すりを設置、トイレ、浴室も分かりやすいよう案内表示は工夫されています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190202291		
法人名	医療法人社団 翔嶺館		
事業所名	グループホーム丘珠たから館		
所在地	札幌市東区北34条東24丁目2番12号		
自己評価作成日	令和7年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0190202291-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム丘珠たから館は、丘珠空港近くの閑静な住宅街に位置する開設2年目を迎えた2階建ての2ユニットの施設です。入居前は、ご本人様とご家族様としっかり入居後の生活について希望や目標の話し合いをし、入居者様の実現したい暮らしのサポートをさせていただいております。住居環境につきましては、施設内バリアフリーで、どのお部屋からもトイレが近く、フロア内に死角がないことで職員も見守りしやすい施設となっております。今年も春には、入居者様全員で花見に行き、夏は、ご家族様も招待し夏祭りを催しました。子ども太鼓のボランティアの皆さんにも来ていただき近所の方も見学にいらして大変盛り上がり、皆様から「楽しかった」「料理が美味しかった」とのお言葉を頂戴いたしました。10月は、モエレ沼公園へ紅葉狩りにも行けました。これからも四季の移り変わりを肌で感じて頂けるようなイベントを企画し、地域の方々とも交流が持てるよう支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「その人らしさ、笑顔、安全」のある生活を地域とともに支えます。更に「職員の心得15か条」を掲げ常に意識して取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と交流が持てるよう町内会に加入し、地域の情報を共有しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	接触による罹患を想定すると、地域の方との交流に慎重にならざるを得ない状況ではあるが、今後は地域の行事への協力・参加をしていきたいと考えております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進委員を実施し、地域包括支援センター、民生委員、地域の代表者、参加希望のあるご家族様を交え、情報交換を行っています。また地域の会場を使うことで地域貢献しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市には、毎月入居状況の報告をしております。生活保護の利用者様は定期的に担当者と連絡を取りサービスを受けることができます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で定期的に身体拘束の研修を実施しており、委員会議事録を職員に回覧し情報を共有しております。すべての職員は身体拘束の概念を理解し、日常のケアに反映に努めております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体で職員研修を年に2回以上実施しています。たから館では、虐待アンケートを募りグループワークで勉強会をし、不適切なケアを注意し合える関係性を築く努力をしている。		

グループホーム丘珠たから館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度、日常自立支援、権利擁護に関する制度について見識を有し、事業所内研修で職員が学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス内容、利用料金、必要物品、退居に該当する要件など、事前に説明し承諾を得ています。介護保険制度、料金改定の際には、都度同意書を交わし、承諾を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を用意し、ご家族様よりご意見、ご要望の聴取を行っています。運営推進会議の場を活用し、「ご家族様の意見や要望を聴取しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット毎と全体ミーティングを実施しており、利用者の入退居基準、設備や福祉用具の導入の意見や提案は積極的に聴取しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社、パート職職員員においては更新時に面談を実施し、前年度の振り返りや次年度の目標などを一人ひとりと話し合いの機会を持ち、個人の特性を活かした成長ができるよう支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ会社主催による研修制度があり、キャリアやスキルに応じて各種研修を受講できます。また資格取得支援として、費用負担なく主任者研修や実務者研修を受講できる制度があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内で、合同研修会、災害対策、身体拘束適正化、業務効率化に係る委員会を運営しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の不安な気持ちを払拭できるように心配事や要望には、きめ細かく対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所で出来ること出来ないことを明確にし、納得していただいた上で家族と二人三脚で本人の望む生活に向けて支援できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時点で、現在の状況をよく伺い、入居者様にとって最も適切と思われるサービスを提案できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が役割を持つ視点で出来ることに注目し、掃除や手すり拭き、食器拭き等を見守りや声を掛けて一緒に行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に担当職員を配置し、必要時にご家族と連絡を取り合い、援助方法変更等の相談もご家族にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	動画視聴などツールを用いて故郷や思い出のある場所や物などを回想できるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極め、家事やレクリエーションを通じて、円滑な関係を築けるように支援しています。		

グループホーム丘珠たから館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に実績はないが契約を終了された入居者についても、その後の生活に必要な情報提供、事業所で可能な範囲で支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り利用者様に直接意向を伺っていますが、意思疎通が困難な場合は、家族からの聞き取りや生活歴等を参考に本人本位の支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時より本人との会話や家族との話からアセスメントの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や活動等の様子を観察し、記録に残しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、ケアスタッフからの情報を基にケアプランを作成し評価しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス記録により新たな課題を見つけます。連絡ノートを活用とタブレットの申し送り機能で発信した内容を職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々生まれるニーズに対し、臨機応変に対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現サービスを利用しながら、入居者様にとって有益と考えられる社会資源の活用を模索しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携している病院から2週間毎の訪問診療が基本となるが、症状やかかりつけ医の判断によっては、他の病院へ受診しています。		

グループホーム丘珠たから館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院から1回/週、看護師による訪問相談を受けています。書面や口頭にて入居者様の生活状況や変化を伝え、指導を受けています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は定期的に連絡取ることで経過や治療内容を把握し、早期退院に向けた相談や時期の調整を行っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近い入居者においては、ホームでの生活ができるボーダーラインを定め、次の生活場所へ移行できるよう、本人はもとより家族やかかりつけ医をはじめとした関係機関との連携を取っています。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアル(急変、事故、災害等)を設置し、入職時の研修を含め定期的に研修を行っています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練(うち1回は地震対応)を実施しています。地域との連携に関しましては今後の課題と捉えています。法人全体での方針として、BCPの策定を行っています。			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け等の言葉使いに気をつけ定期的に接遇研修を行っています。申し送りは、居室番号で示し個人名がわからないようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1対1で関われる入浴時に入居者様の想いをできるだけ聞き出すなど工夫し、自ら意思決定できる働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは可能な限り入居者様が自己決定できるよう働きかけています。自己決定できない入居者様は、家事や制作の提供を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や天候にあった服装を一緒に選びます。担当職員が定期的に引きだしの整理や衣替えをしています。		

グループホーム丘珠たから館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な手作りおやつ、行事食の提供を行っている。入居者様と一緒におやつを作ったり食後の食器洗い、お盆拭きや食器拭きをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録し管理しています。摂取能力や嚥下状態を観察報告し、医療機関と相談しながら調整しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。訪問歯科による指導やアドバイスを受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄できるよう定期的な声かけ、誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するため排便コントロール表を作成し、看護師に相談しながら支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっていますが本人からの希望、体調に合わせて臨機応変に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「良眠を目指し」日中の活動量や臥床時間を考慮し対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方されている薬の内容や頓服薬も確認し、正確に服薬できるようチェックシートを用いて管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の中で参加できる活動を入居者様と一緒に見つけ、主体的に暮らしを楽しめるよう配慮しています。季節の行事や外出レクリエーションを提案し楽しみを持って生活できるよう支援しています。		

グループホーム丘珠たから館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の意見を取り入れ近所に散歩に出かけたり全員参加できる花見や紅葉狩りを計画実施しています。家族と一緒に買い物や食事、近所へ散歩に行かれる方もいます。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失事故など事故防止の視点から入居者様の金銭所持はご遠慮いただいております。必要な物品の購入は、立替払いとさせていただきます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の充電をしたり、ご家族様からの電話の取り次ぎには快く対応しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい室温を保ち、感染予防策のため換気を行っています。共有部分は季節感を考え展示物や飾りつけをしています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫し、おひとりで寛ぎたい方もグループで話したい方にも快適に感じいただけるよう努めています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたものを持ち込んでいただけるよう、ご家族にお願いしています。馴染みのあるものを使うことで自分の居場所として安心して生活いただけるよう努めています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計で共有部分は全て手すりを設置、トイレ、浴室も分かりやすいよう案内表示は工夫されています。			